

2月15日(水)

プログラム1-1: 事業企画ワークショップ～体験型～  
14:15～16:15

## ■こんにやく体操とオペラ入門

ワークショップといえば、とうてい一律に定義できないほど幅広いものになっていますが、今回は歌・踊り中心の、いうなら正攻法です。愉快的「口はロボットの口」、すがすがしい「森は生きている」、さらには昨年「ゴーゴリのハヤ」のような寓意喜劇まで、創立40年の実績をふまえて多彩な活動をつづけるオペラシアターこんにやく座の、むしろ時流に抗してきちんとした楽しいオペラ・ワークショップに参加してみませんか。服装は自由、見学も自由です。

講師:	萩 京子	オペラシアターこんにやく座代表・音楽監督・作曲家
歌役者:	梅村 博美	オペラシアターこんにやく座
歌役者:	佐藤 久司	オペラシアターこんにやく座
司会:	岩波 剛	演劇評論家

2月15日(水)

プログラム1-2: 事業企画ワークショップ～体験型～  
16:30～18:30

## ■人形劇の魅力、人間の真実を写しだすメディア

—人形浄瑠璃「文楽」からテレビ「ひよっこりひょうたん島」まで—

日本人は江戸時代に、貴族や武家社会が創造した舞台芸術(雅楽・能楽)に学び、庶民社会で人形浄瑠璃と歌舞伎という新しい舞台芸術を興行化しました。それは全国各地で民衆が独自に信仰・自然・生活と結びついた地域の芸能(神楽・風流など)を、新しいエネルギーにして集結させたもののように見えてきます。人形と人間による身体表現(音楽・舞踊・演劇)観は、虚実皮膜の表現で、互いに世界に類稀な舞台芸術となりました。東南アジア、日本の伝統人形劇、伝統と現代の人形劇を通して、人形劇の新しい可能性を探ります。その体験を通して事業企画に活かしてほしいです。

講師:	塚田千恵美	(公財)現代人形劇センター理事長。人形劇プロデューサー
講師:	伊東史朗	人形劇団ひとみ座前代表。人形遣い、脚本、演出家
講師:	桐竹勘十郎	人形浄瑠璃文楽人形遣い
司会:	平野 英俊	舞踊評論家(邦舞)

2月15日(水)

## プログラム2-1: 今日的政策課題 I (新しい公共)

14:15~16:15

## ■顧客育成等、教育現場とつながる新しい公共

劇場や音楽室での催し物の観客動員は、優れた催し物の制作と同様に重要なものです。催し物の制作には、いろいろなパターンがあって、ある場合は、公演団体に一任しておける場合もありますが、顧客動員だけは他人に一任することはできません。しかも、催し物の内容によってその観客の対象、方法もいろいろ考えなければなりません。この分科会では、それらの観客動員の中から、次代を背負う子どもたち、即ち、教育現場＝学校の生徒たちを勧誘するにはどのようにしたらよいか、話し合ってみようと思います。

講師： 櫻井 あゆみ NPOトリトン・アーツ・ネットワーク アソシエイト・ディレクター

講師： 野沢 藤司 河口湖ステラシアター マネージャー

司会： 池田 温 武蔵野音楽大学教授

2月15日(水)

## プログラム2-2: 今日的政策課題 II (法制度の動き)

16:30~18:30

## ■災害復興とそのミッション “地方自治体と公立文化施設の役割”

鳥取県知事時代の鳥取県西部地震への対応からその災害復興へ至る道のりと災害復興のミッションについてお話しいただくとともに、東日本大震災発生時の総務大臣として、どのように大震災と向き合い、その復興基盤の整備に努めたのか、経験談をもとにお話しいただきます。また、2007年出版された「災害復興とそのミッション」の内容をベースとして、災害時における公立文化施設の役割とミッションを説きます。

講師： 片山 善博 前総務大臣 慶応義塾大学教授 前鳥取県知事

司会： 柴田 英杞 (財)滋賀県文化振興事業団 副理事長・芸術監督

2月16日(木)

## プログラム2-3: 公立文化施設の経営評価(含アーツカウンシル)

13:00~15:00

## ■日本版アーツカウンシルの行方-芸術文化を支える新たな仕組みづくりに向けて

文化芸術の振興に関する基本方針(第3次基本方針)に基づき、平成23年度から審査・評価等の仕組みの成果及び課題の検討が始められた。つまり「日本版アーツカウンシルの試行的な導入」の第一歩が、既に始められている。ただし、このプログラムは「試行的な導入」にあるように、既に完成したプログラムというよりむしろ、これからのわが国の芸術文化を支えていく仕組みづくりの第一歩と捉えるべきかもしれません。では、この「日本版アーツカウンシル」は、今どのように始められ、どのように進められようとしているのか。また、今後どのようなことが期待されていくのか。そのことについて俯瞰する機会としたい。

講師： 吉本 光宏 株式会社ニッセイ基礎研究所主席研究員・芸術文化プロジェクト室長

司会： 草加 叔也 (有)空間創造研究所 代表

2月15日(水)

## プログラム3-1: マーケティング

14:15~16:15

## ■文化プロデューサーが広げるマーケティング【人材育成がまちを元気にし始めた！】

文化施設も、文化団体も、どうしたら観客・聴衆・参加者が得られるか、リピーターを増やしながら、新しい人々を迎え入れられるかと、知恵を出し、力を出しています。その基本は、「地域に根ざす」ですが、まずそれを担い、推進する人が必要です。

ここに取り上げる岐阜県池田町は、文化庁の支援を受けた「町を元気にする文化プロデューサー養成講座」から始めて、そこから生まれたグループが中央公民館を活用しようと、意欲的な活動を続けてきました。そこからは、中小規模の施設はもとより、大都市の地域の活動にも通じる可能性と課題が見えてきます。

報告者: 石田 香里 文化プロデュースSEINO代表

報告者: 横幕 大祐 岐阜県池田町教育委員会社会教育課文化係長

コメンテーター: 下斗米 隆 NPO法人世界劇場会議名古屋理事長

司会: 佐藤 克明 全国公立文化施設協会アドバイザー

2月15日(水)

## プログラム3-2: 制作と広報・宣伝

16:30~18:30

## ■「制作の仕事 — 劇場文化をより広め、深めるために —」

「制作の仕事」は重要だとよくいわれますが、どのあたりが肝心なのでしょう。ここでいったん見直してみませんか。英国ウェールズにあるナショナル扱いのクレーイド・シアター・カムリの様子やマンチェスターの青少年のためのコンタクト・シアターの試みなどを紹介しながら、自分自身の体験と魅力的な企画立案の関係、劇場内スタッフや施設の充実、劇場と地域の関係づくりなど「制作の仕事」について多角的に探ります。

講師: 高瀬磨理子 新国立劇場制作部演劇プロデューサー

司会: 酒井 誠 演劇制作アドバイザー

2月16日(木)

## プログラム3-3: 資金調達(助成金、寄附金、協賛金)

9:30~12:00

## ■夢の共感から、湧き出る寄付へ“ファン度を上げる具体的な手法”

昨年度の資金調達の講義では、資金調達の概念整理を中心に民間における個人寄付という観点から、資金調達の重要性について学びました。今年度は、引き続き資金調達の概念整理を行うとともに、具体的な資金調達の手法を検討してみたい。

講師: 伊藤 美歩 日本ファンディング協会理事

司会: 柴田 英杞 (財)滋賀県文化振興事業団 副理事長・芸術監督

2月15日(水)

## プログラム4-1:接客・接遇ワークショップ

14:15~18:30

■地域文化施設職員・入門編！  
お客様をお迎えするワークショップ

地域の文化施設は、利用されるお客様や観劇にお越しになるお客様を日々お迎えしています。お客様は客席で感激のひと時を過ごす方、舞台上で日頃の練習の成果を発表される方など来館される動機は多様ですが、すべてのお客様はサービスを受ける為に来館されているのです。もちろん職員もサービスの提供者です。施設職員は接客対応の達人である事が望ましいのです。表方は観客の安心安全を守る事、リスクマネジメントも仕事の範疇です。表方ボランティアを組織している施設では、提供するサービスの内容を職員が知らなくてはお任せできません。このプログラムは接遇のプロである、サントリーパブリシティサービス(SPS)のレセプションリーダーから、劇場サービスのノウハウ、ホスピタリティあふれるサービスについて学びます。レセプションのトレーニングを経験し、お客様をお迎えする心構えや具体的な所作を学び、皆さんの施設で生かすきっかけにしたいと思います。貴重な4時間になる事を期待しております。

講師：星野 愛子 サントリーパブリシティサービス株式会社  
司会：間瀬 勝一 逗子文化プラザホール館長

2月16日(木)

## プログラム4-2:リスク・マネジメント

10:00~12:00

■東日本大震災の教訓に学ぶリスク・マネジメント

未曾有の被害の元凶である「東日本大震災」の発生から早いもので一年がたとうとしている。地震そのものの被害に加え、その後に発生をした津波は、わが国の最新技術をも脅かし、大きく深い傷跡を残した。被災地の暮らしはどうなっているだろうか、行方不明者の多さには忸怩たる思いがある。私たちは、この地震と津波が引き起こした全ての被害と犠牲になった多くの命を忘れてはいけない。また、この尊い命に報いるためにも東日本大震災の教訓から命を守るためになすべきことをひとつでも多く学びとる必要がある。

全ての被害を引き起こした元凶への備えは確かだったろうか。十分な対応ができたろうか。そしてその後の対処は適切だったか。私たちは、特に劇場・音楽堂で起こったことをつぶさに知るとともに、今後劇場・音楽堂が果たしていかなければならないことについてしっかりと考えていかなければならない

パネリスト： 草加 叔也 (有)空間創造研究所 代表  
間瀬 勝一 逗子文化プラザホール館長  
コーディネーター：坪能 克裕 作曲家・音楽プロデューサー

2月16日(木)

## プログラム4-3:震災関連(報告等)

13:00~15:00

■大震災等災害時に、芸術文化は被災地に何が出来るか —東日本大震災のケースで考える—

平成23年3月に発生した地震、津波、原発事故は、はかりしれない被害を東日本はもちろん、日本全国に与えました。その後ただちに被災地からは復興の力が、そして国内だけでなく、全世界に支援の輪が広がりました。

このような時に芸術はなにが出来るのか、無力感を感じた人も多かったと思います。しかし、やむにやまれぬ思いで行動を起こしたアーティストもたくさんいました。このプログラムは、そのなかで舞台芸術のいろいろなジャンル、いろいろな立場の方のケースを取り上げ、芸術の役割、機能、そこでの進め方、留意点などについて、参加者の皆さんとともに考えます。

講師：今村 博明 バレエシャンブルウエスト芸術監督  
松木 上次 清里フィールドバレエ事務局代表  
水戸 雅彦 仙南芸術文化センター(えずこホール)所長  
大澤 隆夫 仙台フィルハーモニー管弦楽団専務理事  
司会：うらわまこと 舞踊評論家  
コーディネーター：坪能 克裕 作曲家・音楽プロデューサー

2月16日(水)

プログラム5: 法制度(指定管理者制度等)  
13:00~15:00

## ■指定管理者制度と市民文化創造

指定管理者制度のもとで、多様な民間主体が公立文化施設の運営に当たっています。長年の劇団活動から生まれたNPOが管理する公共劇場、町衆が大切に保管して来た文化資源(芝居絵)を核として開設された住民管理の美術博物館、市民たちが若手専門家を迎えて創造活動に取り組んでいる文化ホール。

これらの文化施設は、専門性を持ち、あるいは専門家としっかり連携し、市民文化の創造という使命を果たしていますが、一方で運営上の制約も大きく、様々な困難を抱えています。本プログラムでは、それぞれの施設の専門家を迎えて、課題や問題点を検討します。

講師: 園山土筆 しいの実シアター(島根県松江市)芸術監督(劇団あしぶえ主宰)

横田 恵 絵金蔵(高知県香南市)蔵長

戸館 正史 月見の里学遊館 企画スタッフ・アートマネジャー

司会・コーディネート:

鈴木滉二郎(明治大学特任講師)

## 基調講演

カルチャー棟 小ホール

2月15日(水)

12:45~14:00

出演: 近藤 誠一 文化庁長官

## 特別プログラム

カルチャー棟 大ホール

2月16日(木)

15:30~17:30

## ■「柄本明ひとり芝居」

風に飛ばされる紙くずのように、街から街を渡り歩く男。売っているのは水虫防止付シート。ところで或る日、或る街で、男は突然決心する。「流れるのをやめて住まおう」と。「売りに行くのではなく、買いに来させよう」と。住まうための男の悪戦苦闘が始まるが……。

「かねてより柄本明氏とは、一度仕事をしたいと考えていた。彼が虚空にたたずまうこと自体がおかしいのであり、喜劇なのであり、この舞台上の稀有な存在の、彼外あり得ないと考えたからである。『虚空を喜劇する』という、やや舌足らずな言い方で、氏との初めての共同作業としたいと考えている。別役実」

作: 別役実

出演・演出: 柄本明

制作: トム・プロジェクト

司会: 酒井 誠 演劇制作アドバイザー

2月17日(金)

10:00~11:30

**■地域伝統芸能を復興の力に！**

2011. 3. 11に発生した東日本大震災により、東北三県沿岸地方の地域伝統芸能が甚大な被害に見舞われ、芸能に使用する小道具や楽器、衣裳などの消失、伝統芸能に携わる方々の多くが被災され、今もなお、活動の再開が整わない状況が続いています。

本研修は、地域伝統芸能が地域の活力となり、被災された人々への心の復興支援として、重要な役割を果たしている現状をご報告いただくとともに、復興への思いと地域伝統芸能の復興支援について語り合います。また、地域伝統芸能の実演披露がございます。

パネリスト： 星野 紘 (独)国立文化財機構東京文化財研究所名誉研究員・神奈川大学特任教授  
紺野 修 福島県教育庁文化財課文化財副主査  
小谷 竜介 宮城県教育庁文化財保護課技術主査

コメンテーター：(調整中)

司会：柴田 英杞 滋賀県文化振興事業団 副理事長兼芸術監督